

# 第 7 章

## 質的調査(インタビュー調査)



# 1. 全体総括図

## 障害者本人のニーズ

### 現状

#### 楽しみ

- 趣味を持つ人が多い
  - ・ インドア(パズルをする、DVD鑑賞、絵を描く、音楽を聴く、テレビを見る)
  - ・ アウトドア(散歩をする、野球観戦をする)
- 施設のイベントが楽しい
- 施設での日中活動が楽しい
  - ・ 友人と過ごすことが楽しい
  - ・ みんなとおしゃべりすることが楽しい
  - ・ 作業が楽しい

#### 相談

- 不安・困りごと
  - ・ お金について(金銭管理が一人では困難)
  - ・ 就職について
  - ・ 人間関係のトラブルで仕事を辞めるなど
- 相談相手
  - ・ 施設職員、先生、友人、家族、区役所、司法書士
- 困っていることは特にない、相談をしていない

#### サービス

- 移動支援を利用している
- 成年後見人制度を利用している
- 余暇活動で区の施設を利用している
- サービス利用手続きは自分以外が行っている
- サービスを利用していない
- わからない、サービスを知らない

#### 将来(未来+希望)

- 仕事
  - ・ 今の仕事を続けていきたい
  - ・ (今の仕事に関連した)他の仕事もしたい
- 暮らし
  - ・ グループホームに入りたい
  - ・ 今の生活を続けていきたい
- 結婚を少ししたい
- 自分でできることを増やしたい
- わからない

#### 施設形態ごとの特徴

- 就労継続支援B型  
「作業が楽しい」という回答が多い
- 生活介護  
「サービス」や「将来」に対する回答は、「わからない」が多い
- グループホーム  
将来への希望に対する回答が多い
  - ・ 料理教室に通いたい
  - ・ 結婚したい 等
- 地域活動支援センター  
人間関係や体調不良によって仕事を辞めた人が多い。  
また、その多くが「働きたくない」と回答している。

\*この量的調査結果は回答者別にみたデータに基づいており、養護者の観点として記載されている数値は家族等が本人の気持ちを考えて回答した結果です。なお、( )内の本人回答数値には代筆での回答も含まれます。

## 現状から導き出せること（質的調査と量的調査の比較）

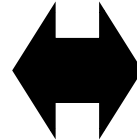
### 本人の観点（質的調査結果より）

#### 『過去+現状』

- 楽しみ
  - ・仕事が楽しい
  - ・作業が楽しい
  - ・趣味が楽しい
- 両親の介護で悩んでいる
- 働いていない
- 家族以外との人間関係が希薄

#### 『未来+希望』

- 仕事
  - ・働きたい
  - ・働きたくない
- 結婚
  - ・少ししたい
  - ・わからない
- 今の生活を続けたい



### 養護者の観点（量的調査結果\*よ）

#### ●一般企業での就職希望

希望する 16.6%（参考：本人回答 27.8%）

希望しない 44.7%（参考：本人回答 40.2%）

#### ●希望する過ごし方（上位2つ）

就労移行・継続支援事業所等への通所 19.3%（参考：本人回答 15.3%、2位）

仕事をする、又は継続する 14.4%（参考：本人回答 42.4%、1位）

#### ●現在または将来の心配事（上位2つ）

将来の生活のこと 76.5%（参考：本人回答 58.3%、1位）

介助者がいなくなること 59.5%（参考：本人回答 25.7%、5位）

\*本人回答の2位は「財産管理のこと（33.3%）」となっている。

### 企業就労や働くことへの思い（質的調査結果よ）

- 趣味を生かすという将来の夢を持っている
- 作業所で働き続けたいので、企業での就労は希望していない
- いじめにより企業をやめたため、企業での就労は希望していない
- 企業への憧れはない
- わからない

### 家族の意向（量的調査結果自由意見より要約抜粋）

#### ●仕事について

・長男は現在働いています。就職できたのはよかったのですが、職場での、知的障害者の理解度は低く、非常に大変な思いを親子でしました。社会全体において、もう少し理解して頂ける事を望んでいます。

#### ●相談について

・本人が大人になった時、自分で相談に来て何か話したら、その子にとって最適なサービスの組合せを提案したり、手続きしたり。少し先の事を見越して行ってくれる部署があれば、親として少し安心です。

#### ●将来について

・親がいなくなったらどうなってしまうんだろう、そう思うのは私だけではないと思います。昔よりも制度が充実してきているのだとは思いますが、将来を考えるととても不安です。親や介助者がいなくても安心して生活していける街であってほしいと願います。

## 2. 全体総括図解説

調査の結果を障害者本人のニーズとしての【現状】と【現状から導き出せること】の二点から考察しました。聴き取り調査による質的データを分析の基盤としているため、具体的な数値を提示することができませんが、通所施設利用者の全体的な傾向としてとらえたものとして考えています。インタビュー実施時の雰囲気考察の解釈につながることも聴き取り調査の特性として合わせて明記しておきます。

### (1) 現状

#### ①楽しみ、余暇等

調査全体を通して趣味を“楽しみ”とする人が多いとすることができます。インタビュー結果は、「パズルをする」、「DVD鑑賞をする」、「絵を描く」、「音楽を聴く」、「テレビを見る」、「手芸をする」といったインドアなもの、「散歩をする」、「野球観戦をする」、「ボーリングをする」といったアウトドアなものに大別できました。

また、施設が企画する郊外宿泊や納涼祭、運動会といった「イベントが楽しい」という回答が多く得られました。施設での日中活動が楽しいという回答もあり、具体的には「友人と過ごすことが楽しい」、「みんなとおしゃべりすることが楽しい」、「日中作業が楽しい」というものでした。

#### ②相談

相談についてのインタビュー結果は、『不安・困りごと』についてと『相談相手』についての2つに大別できました。

『不安・困りごと』についての内容は、金銭面や就職、友人関係についてでした。『相談相手』は「施設職員」、「先生」、「友人」、「家族」、「区役所」、「司法書士」であり、身近な人から専門職までが相談相手となっています。特筆すべきは、回答中の「困っていることは特にない」、「相談をしていない」という回答であり、これらは生活介護の利用者に多くみられました。すなわち、自立度が高まると相談も増える傾向があると言えます。

#### ③サービス

サービスについては、移動支援や成年後見人制度、介護事業所等を利用しているという具体的な回答のほかに、「(サービス利用手続きは自分以外が行っているため、)わからない」、「サービスを利用していない」という結果が得られました。サービスの認識度が利用者の施設形態によって異なる現状が明らかになりました。

#### ④将来(未来+希望)

将来のインタビュー結果は『仕事』についてと『暮らし』についての2つに大別できました。『仕事』は「今の仕事を続けていきたい」、「他の仕事をしたい」という異なる回答がありました。また『暮らし』については、「今の生活を続けていきたい」、「グループホームに入りたい」、そして「結婚を少ししたい(してみたい)」という回答も少数ながら得られました。他には「自分でできることを増やしたい」、「作品の展示、販売をしたい」、「わからない」という結果が得られ、未来や希望に対する個別性がうかがわれるものでした。

#### ⑤施設形態ごとの特徴

就労継続支援B型は「作業が楽しい」という回答が多くありました。また、企業就労や

働くことへの思いに関して問うと、「作業所で働きたいので、企業での就労は希望していない」という回答があったことが特徴と言えます。

生活介護の利用者は、相談、サービス、将来に対して「わからない」という回答が多くありました。インタビュー対象者の多くは家族と同居しており、サービスの利用手続きは利用者以外が行っているため、利用者自身はサービスを受けているという自覚がない、知らないという背景が考えられます。

また、グループホーム利用者は「料理教室に通いたい」、「結婚したい」などの将来への希望に対する回答が多くみられました。

地域活動支援センターには、人間関係や体調不良によって仕事を辞めた人がおり、企業就職や働くことへの思いに関する質問に対して「働きたくない」と回答している人もいます。地域活動支援センターには、そのような人たちに対し日中を過ごす場を提供しているという施設の特徴が挙げられます。

施設形態に関わらず共通する点は、利用者の多くは趣味を持ち、楽しんでいると回答している点と、現在の生活を続けたいという回答が多い点であるということが言えます。

## （２）現状から導き出せること

### ①本人の観点

『過去+現状』では、上記（１）内の楽しみ、相談、サービスに対する項目から「趣味が楽しい」、「作業が楽しい」、「仕事が楽しい」という楽しみがある一方、「両親の介護で悩んでいる」、「時間になるとテレビを消され、自由がないと感じている」などという困りごとや、家族以外との人間関係が希薄といった現状から、十分に相談ができていない状況も浮かび上がりました。

『未来+希望』では、（１）④の将来(未来+希望)から、「(今の生活を) 続けていきたい」、「グループホームに入りたい」という回答が得られました。「結婚を少ししたい」、「自分でできることを増やしたい」、「料理教室に通いたい」、「旅行に行きたい」、「コンサートに行きたい」という具体的な希望も得られましたが、「特にない」、「わからない」という回答や、現状に満足しているので思いつかないといった意見も得られ、具体的な将来像が描けていない状況が生活介護の利用者に多くみられたところです。また、グループホーム利用者からは将来への希望の回答が得られ、グループホームの特性が活かされていました。

### ②企業就労や働くことへの思い

就労継続支援B型の利用者からは「作業所で働きたいので、企業での就労は希望していない」という回答の反面、「(今の仕事に関係した) 他のこともやりたい」という回答が得られました。生活介護利用者からは、企業就労への憧れについて明確な回答はあまりないものの、若干の就労希望の回答がみられました。グループホームでは将来に対する希望は聞かれましたが就労希望の意見は少なく、仕事をしている人も「現状維持」という回答でした。地域活動支援センターは施設の特性上、「働きたくない」という回答が見られた一方で、趣味を生かした仕事をしたいという将来の夢を持っている方からの意見も得られました。

以上のことから、企業就労や働くことへの思いに対しても、施設形態による回答の特徴があるということが考えられます。

◆注釈 : 本文中の「 」は、インタビューから得られた知的障害者本人の回答です。